

神奈川県立保土ヶ谷養護学校学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和4年度 第3回 ほどう協議会		
開催日時	令和4年 12月 14日(水)		
開催場所	横浜平沼分教室		
出席者	令和4年度保土ヶ谷養護学校 学校運営協議会委員 8名(本校校長を含む) 令和4年度保土ヶ谷養護学校 学校運営協議会事務局教職員 4名		
次回開催予定日	令和5年2月 27日(月)		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷養護学校 副校長 川島 結子 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
<p>1. 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年前、この会場で学校運営協議会を実施している。3年前のことだが、最近のこのように印象深い。横浜平沼・舞岡分教室の取り組みを聞けること、楽しみにしている。 <p>2. 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。コロナ対応は、県の通知のもとに対策を講じながら教育活動は止めずに行っている。第8波でも大きく変わることなく教育活動を進めている。状況によって学級閉鎖等もあり得るが、本校は最近ではない。高3の修学旅行は5月の予定を変更し、県内1泊2日で12月実施となっている。 ・今日は横浜平沼分教室で分教室の説明や参観をしていただき、皆さんにご意見をいただきたい。今年、県から新しく特別支援教育推進の指針が出て、分教室設置校と協力しながら充実させていくことが記されている。様々なご意見をよろしくお願いします。 <p>3. 出席者および会成立の確認 および 4. 資料確認・本日の流れの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名ご欠席だが、8名の委員出席により会は成立となります。(本日の資料の説明) <p>5. 議題「分教室の取り組み」</p> <p>①分教室の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼分教室概要説明「県内分教室設置状況説明」(副校長) 過大規模化への対応・知的障害生徒の新たな学びの場として H16 年から設置されている。県立 16 校の中に 20 か所の分教室がある。 ▼舞岡分教室紹介(舞岡分教室リーダー) 昨年度は舞岡分教室で運営協議会が実施された。今年度の新しい取り組みや力を入れている内容についてお話ししたい。 *軽度知的障害の生徒が通い、1年生は19期生。生活する力・働く力を培うことが分教室の大きな目標になっている。昨年度は仮設校舎で過ごしていたが、9月に校舎に戻った。校舎は LED ライトへの交換、トイレの個室がウォシュレットになり過ごしやすくなった。また、新しい部屋とし 			

て相談室をもらった。職員の更衣室・防災用品置き場も兼ねているが、相談室として使えるようになった。

* 高校の学習指導要領が新しくなり、日課を大きく変更した。新しい時間割で働く力・生活する力を培っていききたい。

・職業の学習を1日通して行う曜日を設定。

・進路学習、座学の時間を時間割に取り入れた(1年1コマ、2年2コマ)。

・情報の時間を新しく設定。

* 職業は、これまで物づくりと清掃を行っていたが、班構成を変更し、校内外の仕事を受けて働く仕事、サービス業の班を設定。1日通して立ち作業に取り組むことを経験している。

* 高校との交流では今年はいろいろな活動ができた。交流の中で本校生徒の様子を見てもらうことができてよかった。田んぼの草取りでは園芸部との交流。文化祭では、ポッチャに高校生がたくさん来てくれて盛り上がり、障害者スポーツの紹介にもなり大成功だった。

* 昨年度はできなかった防災学習に、今年は力を入れた。シェイクアウト訓練を抜き打ちで年3回。喫食訓練など。挨拶運動にも力を入れた。職員室前を通るときには必ず挨拶をするように伝え、習慣化している。生徒会の挨拶運動で、舞岡高校生徒会と一緒に挨拶運動を行うことになっている。

* 進路状況について。昨年度の卒業生の特徴はアフターフォローの要請が少ないこと。うまく対応できていると感じている。今後企業就労が増えるようにできるとよいと思う。

Q:A 委員)受注班の受注の内容は？

舞岡分教室リーダー)古いゲーム機の解体や、本校 PTA からもらったベルマークの分別・集計作業、帳合いなど

▼横浜平沼分教室紹介(横浜平沼分教室リーダー)

授業は、学年ごと、縦割りで行っている。各学年の生徒数は募集人数と同じ定員の15名ずつ。担任は3名ずつ。室長・進路担当等も合わせて教員は合計13名。

* 朝は「体力づくり」を行っている。コロナの影響もあるのか、生徒たちに体力がないと感じている。総合的な探究の時間として、月1回「友の会」の活動を行っている。4つの活動から生徒がやりたい活動を選んでいる。ハンドメイドは生徒自身が何をしたいかを考えて準備をしている。

* 縦割りの活動として「職業」がある。1年間1つの班に所属し、3年間で3つの班を経験する。働くための体力、意識・意欲を育てることには時間がかかると感じている。

サービス班では、BUN カフェを運営している。3年前の運営協議会では、委員の皆さんにお客さんとして来てもらったが、今はコロナのガイドラインでお客さんに提供できないことになっている。そのため、店員役・お客役に分かれて自分たちでコーヒーを入れたり接客をしたりして、臨機応変な対応など学んでいる。

環境整備班では、岡野公園の落ち葉掃き等校内外の清掃。先日は公園管理事務所から依頼があり、球根植えを事務所の方に教えてもらいながら行った。雨の日はエコスポンジづくり。靴下工場から靴下づくりの端材を使って作成している。

受芸班は、説明会の資料などの帳合いなど受注による作業や手工芸的な作業を行っている。

* 校内実習では、近隣企業から受けたパンフレットの挟み込み、解体作業、横浜平沼高校から受けた校内の補修作業(ペンキ塗り)等を行っている。その他、分教室に近い TVK ハウジングプラザでの除草作業や今年から新しくトヨタの店舗で清掃や事務補助作業、職員と一緒に洗車に取り組んだ。

* 行事について 修学旅行や宿泊学習等の宿泊行事は舞岡分教室と合同で実施している。

スマホ・ケータイ安全教室は外部講師で KDDI に来てもらい実施した。

* 横浜平沼高校との関わり。体育祭には2種目参加した。文化祭ではエコスポンジ、ポーチの販売、高校のアトラクションに参加した。以前は交流をいろいろ行っていたが、茶道やダンスなどの交流はコロナのこともあり元のように戻せていない。吹奏楽の鑑賞などどのような形なら参加できるかを高校と検討中である。

* 特色ある授業。性教育、政治参加教育、DIG 訓練のほかに分教室は津波の警戒区域にあるた

め、5 階まで垂直避難する訓練を実施した。

6. 横浜平沼分教室 授業見学

7. 協議(意見交換)

会長)意見交換としてお一人ずつご意見をいただきたい。

*B 委員)2年生が楽しそうだった。笑顔が大切だと思うので、笑顔があったのがよかった。1・3年生はまじめに学習をしていた。質問:生徒会の生徒はどのように選ばれるのか?生徒会活動はよいと思う。生徒にとって自信にもなると思う。

*横浜平沼分教室リーダー)選挙を行っている。2月に1・2年生から2人ずつ選んでいる。

*A 委員)良い授業をしていた。教室も明るくて使いやすそうで、のびのびしている様子だった。先ほどの説明で、高校生との交流が今はなかなかできていないとのこと。横浜平沼高校といえば音楽が有名なので、弦楽奏は話さないの弦楽合奏部に聞かせてもらうのはどうか?

*会長)アフターコロナの中での取り組みについて、どのようなことをお考えかお聞かせください。

*横浜平沼分教室リーダー)高校と検討中なのは、吹奏楽部の演奏を聴くことと合唱祭への参加である。今年度再開したのは文化祭への参加である。高校の1年生に連携支援グループリーダーが人権講座で話をする取り組みが2年前は中止になっていたが昨年度から再開されている。

*会長)高校生との交流についてはこのあともお話しできるとよい。

*C 委員)昨年は舞岡、今年は横浜平沼分教室を見て、それぞれの特徴があることがよく分かった。舞岡は自然の中での取り組み、横浜平沼は近くに企業があり取り組んでいることがわかった。何か本校からも受注をお願いしたいくらい。

コロナについては、小学校の場合、1年生は人生の半分がコロナで、経験が積み重なっていない。今が精いっぱい状況。まだ続いているので、子どもの成長に影を落としていると感じている。以前のように戻せないことは、本校でも話している。現在少し感染も増えて大変だと感じている。

*D 委員)高等学校では今年度入学生から1人1台タブレットを家庭で購入してもらうことが決まっている。その前提で授業展開が進んでいる。紙・鉛筆を使わないような授業もある。それに対して、分教室では今は10数台しかないと聞いた。保護者に負担をお願いするのも難しい状況だろう。

ICT機器の活用はこれからの教育には必要だと思うので、学習環境として特別支援学校としてしっかり整えるのが当然の流れだろう。文字以外に視覚的に情報を得ることは大切なことだと思う。前任校がインクル校だったので、生徒にとってICTの必要性は感じる。

分教室の役割は、設置校にとって大きいと思う。障害のある生徒と一緒に学ぶ空間があることは大切。インクル校では各クラスに数人障害のある生徒がいることで、一緒に学ぶ生徒の成長につながる。生徒・職員の学びの場になるととても良いと思う。県・国がインクルーシブの流れの中で大切なことである。

*会長)高校の校長先生からそのようなご意見を頂けることはとてもありがたい。ICT環境については特別支援学校の高等部・分教室でどのように考えているのか、どう進んでいるのか聞けるとありがたい。

*校長)Wi-Fi環境は教室でも使える状況になっている。1学年の授業でスレートPCが使える台数はあり、日ごろ学習で使っている。様々な場面で使うには1人1台使えればと思う。県の会議でも、高校では1人1台なのに・・・という話題になったが、現段階では特別支援学校で1人1台になる予定はないと聞いている。

*会長)その状況では、格差の拡大の課題が明らかになってくる。新たなハンディキャップにつなが

るので、力を入れていく必要がある面だと思う。

*E 委員)生徒の様子を見て、自分の過去の様子を思い返し、学びっていいなと思った。今年度から委員になったが、分教室で日常的にどのくらい高校生と関わりがあるのか。

*横浜平沼分教室リーダー)横浜平沼高校は、分教室エリアだから通ってはいけないということはない。この会場も、普段高校生が学習で使っている。昼休みに部活のミーティングなども行っている。廊下も共有で通っている。具体的な生徒同士の接点としてはなかなかできていない。コロナ以前は部活動に少し入ったりすることもできていたが、難しい。

*D 委員)学校は、これまでできていたことが一度切れるとなかなか継承されにくい。また新しく作っていくことが必要になっているのではないか？

*E 委員)地域活動ホームの活動として、障害のある方、福祉関係の人が使える場所、障害者のためのというくくりになっているが、その考え自体が差別・区別だと考えている。古い規定や市の要綱を見ても、「障害がある方の・・・」という表現があることで区分けがされてしまう。

分教室があるからこそつながれる、一緒にできるということ、私自身も学んでいきたいと思う。そのような社会を作れるとよいと思う。ウチ・ソトと区別がまだあることが、課題であると思っている。

*会長)今後の大切な検討課題であると思う。

*副会長)3 つお話をしたい。

・協議会について 分教室で授業見学と合わせて実施できたことはとてもありがたく、続けてほしい。他校では年3回実施が多い中で、4回実施して分教室も見れることはとてもよい。

・分教室説明について 舞岡分教室:トイレが新しくなったことを一緒に喜びたい。職業班活動を物作りからサービス業に変えたこと、世の中の流れでとてもよい。清掃技能検定も続けてほしい。田んぼは舞岡でないとできない取り組みで、とてもよい。

横浜平沼分教室:保健室がきれいになり、相談室も新しくできてよかった。働くことに向けた体力作りはとても大切。実習先としてTVKやトヨタなど地域の特性を利用して活用できていてよい。

・横浜平沼分教室リーダーは働くことについて県下では有力な先生。授業もとても良い。分教室内も日ごろから良い授業をしていると思う。

*会長)分教室の教育目標には、生活する力・働く力の2つに合わせて、(3)にコミュニケーションの力、人間関係の構築、(5)にスポーツ、芸術などの文化に親しむことが書かれている。その内容についても邁進してほしい。教育課程見直しの内容は適切だと思う。確認として、自立活動の指導はどのように行われているのか、人間関係の形成について、生徒の特性も考えると、合わせた指導として行うだけでなく、時間を設けた指導を継続的に行う必要があると感じたため、自立活動の指導のさらなる充実した指導をお願いしたい。

教育目標の(5)の「豊かで潤いのある生活を・・・」のなかで、横浜平沼分教室の「友の会」の活動はとても良いと思うが、教育課程内の活動になるか？

*横浜平沼分教室リーダー)総合的な探究の時間として、水曜日の午前中に設けている。

*会長)生徒の興味関心からくるものについて、自己肯定感が低い子どもたちもいる中で、卒業後の豊かで潤いのある生活をどう高めるかの活動を継続的・意図的に行うことができるか？(3)(5)の教育目標の内容をさらに充実できることを希望している。

高校と分教室ならではの活動、コロナの分断を乗り越えた活動をご苦労はあると思うが模索してほしい。

学習環境として、トイレが新しくなったことはよいが、ICTを中心とした学習環境の整備の取り組みを進めてほしい。

この2点を進めていってほしい。

8. 事務連絡

*副校長)第4回の日程は令和5年2月27日(月)保土ヶ谷養護学校本校で実施する。年度末の評価を、学部・グループからお伝えし、委員の皆様からご意見を伺いたい。

9. 学校長挨拶

*校長)活発なご意見をいただき、また肯定的な評価をいただきとてもありがたい。分教室の職員の方になるので伝えていきたい。

交流の在り方については、違う組織としての難しさはあったと思う。高校とは職員間の交流があることが生徒の交流につながる。現在も授業を見に来ていただいたり、年次研修で来てもらったりすることなどができている。新たにどんなことができるのかを管理職間でも話を進めていきたい。高校の校長先生方がとても協力的で、行事のお誘いなど声をかけていただける。関係性をさらに深めながら内容を深めていきたい。

ICTについては、県に伝えていく際に、活動の具体的な内容をもとに、必要性を伝えていきたい。

10. 副会長挨拶

*副会長)今日の分教室についての議論、働く力の視点で話をしたい。ダイバーシティ、インクルージョンが進んでいくと、特別支援学校における分教室の役割はさらに大きくなる。12月10日の国会最終日で、障害者関連法案が改正になっている。アセスメントツールの導入、障害者雇用促進法の事業主の責務が量だけでなく質を大切にすること、育成・キャリアアップを大切にすることが盛り込まれている。また、障害者基本法が2023年から変わる。基本計画の中にSDGsが入る。特例子会社も、地域で活用してくださいとなるので、学校運営協議会に入っている意味は大きくなる。

学校は働く人を育てると思って指導をしてほしい。学校は子どもたちを育てて、社会に出してほしい。

*A委員)どんな作業ができるかはわからないが仕事内容の需要が増えるなら、民生委員として関わる中で地域も高齢化で困っている。お掃除などの需要は多い。個々の家庭も困っている。安心して頼めるようなことがあれば、ありがたいと思っている。

*副会長)親会社の中でも、清掃の仕事は多い。分教室で清掃の仕事に取り組んでいることはとても良い。

*副校長)分教室設置当時の生徒たちと、現在の生徒たちの実態が変わってきていると教員はひしひしと感じている。その中で、何を教えていくのか、大事にしていくのかを担当は日々考えて指導している。入学時はなかなか前向きになれなかった生徒が、少しずつ気持ちを伝えられたり周りの人を思いやれたりできることがスモールステップでできていく。自信をもって社会に飛び立ってほしいと思い取り組んでいる。今日は貴重なご意見をありがとうございました。